

セミナーシリーズ

01. 『デジタルレントゲン画像の読影法：買う前に聞いてください』

CR や DR はこれからの獣医療では必須となります。しかし、CR と DR に違いがあるのかを理解されておられない先生も多いですし、また、デジタル画像を読影する際に、大きな落とし穴があることをご存じない先生も居られます。このセミナーでは、デジタル画像の読影時に大切なポイントを復習します。この機会に勉強してください。

02. 『胸部レントゲン読影の基礎：レントゲン所見の大切さ』

胸部レントゲン読影は非常に大切な技術です。分かりにくければ、専門医に見てもらうことも大切ですが、その前に、飼い主に説明が必要となります。このセミナーでは、基礎的なポイントを復習します。新卒の先生も慣れられた頃ですから、しっかり勉強しませんか。

03. 『CT 診断：開業医が知っておくべきポイント』

CT 装置を持っていなくても、最近では、CT 検査を依頼する事が多くなってきています。CT 検査は行えても、CT 診断までしてくれる検査センターは少ないと思います。開業医が症例を送る前に考えるべきポイントを簡単な読影ポイントとともに復習します。

04. 『腹部レントゲン診断の基礎：読影ポイント』

腹部レントゲン読影は非常に大切な技術です。分かりにくければ、専門医に見てもらうことも大切ですが、その前に、飼い主に説明が必要となります。このセミナーでは、基礎的なポイントを復習します。新卒の先生も慣れられた頃ですから、しっかり勉強しませんか。

05. 『骨格レントゲン診断の基礎：見極めのポイント』

骨格疾患をレントゲン診断するための基礎的な読影法を復習します。特に、侵襲度の高い病変をどのように検討するかを見ていただきます。

06. 『発育性骨関節疾患：読影ポイント』

発育性骨格疾患は異常所見を知っていないと診断はできません。専門医に送る事も大切ですが、このセミナーでは、診断に必要な重要なポイントを解説します。

07. 『咳の患者の画像診断：読影ポイント』

咳はよく見られる臨床症状ですが、死亡に至る重度の肺水腫や慢性的な気管支虚脱などの死なないが治らない病気など、様々な原因があります。レントゲン診断は非常に重要な診断方法です。このセミナーでは、診断に重要なポイントを復習します。

08. 『呼吸困難の患者の画像診断：読影ポイント』

呼吸困難はそのまま死に至る事も多く、おそらく、飼主の方が一番、獣医師の診療について、問題化する症状だと思われます。的確な診断が無いと、次の処置ができません。対症療法でどこまでできるかを判断するのがレントゲン診断となります。非常に重要な症状ですから、しっかりと復習したいと思います。

09. 『腹部塊状病変の画像診断：レントゲンから CT まで』

腹部塊状病変は触診できる事も多いですが、全身麻酔をかけて、開腹術から摘出に持っていくのに、飼主様の同意をしっかりと得られない事もあります。やはり、しっかりした鑑別診断リストと予後の告知が必要です。今回はレントゲン診断、腹部超音波診断、CT 診断を利用して情報を揃えていくアプローチ法を復習します。

10. 『嘔吐と下痢の画像診断：レントゲンから CT まで』

嘔吐と下痢の患者は毎日のように診ています。しかし、対症療法だけで終わっていませんか。初診時にレントゲン検査を行い、『今』切るのか切らないのかを判断する事も大切です。特に、制吐剤の強力なものを投薬すると、まったく、嘔吐は無くなり、切るべき症例が手遅れになる事もあります。このセミナーでは、大切な読影ポイントを復習します。

11. 『胸部画像診断：症例検討』

今回は症例を次々に見ていきます。レントゲン診断上、大切な所見の見つけ方を復習し、鑑別診断リストの作り方を勉強します。

12. 『腹部画像診断：症例検討』

次は腹部の症例を次々に見ていきます。レントゲン診断上、大切な所見の見つけ方を復習し、鑑別診断リストの作り方を勉強します。次のステップが何かも考えていただきます。

13. 『骨格腫瘍の画像診断』

骨格の腫瘍には、良性のものから悪性のものまで、また、腺癌の転移から原発性の腫瘍など、多くのバリエーションを作り出します。しかし、基本となる所見があり、その所見を熟知しておく事で、いまずぐに針吸引やバイオプシーが必要かを判断する事は可能です。このセミナーでは、重要なレントゲン所見とその次のステップの超音波検査や CT 検査について解説します。

14. 『脊髄疾患の画像診断』

ダックスフントがポピュラーとなり、椎間板疾患を見る機会が増えました。このセミナーでは、画像診断のアプローチ法と実際の異常所見の読み方、CT 検査や MRI 検査の落とし穴を復習していきます。この機会にしっかりと復習してください。

15. 『胃腸器の画像診断：レントゲンから CT まで』

『胃腸器の画像診断：レントゲンからCTまで』 嘔吐や下痢は日常茶飯事に私たちが見る症状です。その際に、即座に手術をするかどうかは、腹部レントゲン検査でまず、閉塞所見があるかどうかを見極める必要があります。そのあと、腹部超音波検査に加えて、CT検査も非常に有効です。このセミナーでは、レントゲン所見の読み方を復習し、その後続く、超音波所見とCT所見を復習します。

16. 『肝臓、脾臓疾患の画像診断：レントゲンから CT まで』

肝臓疾患は『サイレントキラー』と呼ばれ、早期発見早期治療が非情に重要です。さらに、脾臓疾患も同様です。手術をするのであれば、腹部超音波検査に加えて、CT 検査も非常に有効です。このセミナーでは、肝臓と脾臓に焦点を合わせて、復習します。

17. 『骨格疾患の症例検討会：鑑別診断の作り方』

骨格系の異常では、ついつい対症療法的に鎮痛剤を投与しがちですが、その前に、何が原因で跛行しているかを検討する事が大切です。今回は、症例を用いて、鑑別診断リストを作る際の注意点とそのリストの中での順番付けのポイントを復習していきます。